カテゴリーに対する本質の知覚が合意性推測に与える影響¹

○浅井 暢子¹・唐沢 穰²

(¹ 東北大学大学院文学研究科・² 名古屋大学大学院環境学研究科)

キーワード: 本質主義的信念, 合意性推測, 内・外集団

Impact of Essentialist Beliefs on Consensus Estimation.

Nobuko ASAI¹ and Minoru KARASAWA²

(¹ Graduate School of Arts and Letters, TOHOKU Univ., ² Graduate School of Environmental Studies, NAGOYA Univ.)

Key words: Essentialist beliefs, Consensus estimation, In-group / Out-group

目 的

人々には、自分の特性や意見を実際以上に一般的なものと認識する傾向がある。この傾向は、False Consensus 効果 (FCE) と呼ばれ、特に推測対象が内集団の場合に生じやすく、外集団の場合には生じにくいことが明らかになっている (Spears ら, 1990; Wilder, 1984)。内・外集団というカテゴリー化には、集団内の類似性と集団間の差異を強調する効果がある (e.g., Tajfel, 1982)。そのため、内集団成員には、「自己」との類似性が知覚され、「自己」を手掛かりとした帰納的な合意性推測が行われやすくなる。一方、外集団成員に関しては、内集団成員及び自己との差異が強調されることで、「自己」を投影した推測が抑制されたり、時には自己と異なる特性や意見を保持している人が多いと推測する False Uniqueness 効果 (FUE) が生じるのである。

Yzerbyt ら (2002) は、カテゴリー化の効果、すなわち、集団内類似性と集団間差異の知覚が、集団を区別する「本質」の存在の知覚によって強められることを明らかにしている。これは、カテゴリーが恣意的な分類ではなく、「本質」を伴うものとして認識されることで、カテゴリーの顕現性や有意意味性が高まるためと考えられる。さらに、カテゴリー内での「本質」の共有が知覚されると、集団内の類似性知覚が促進されるだけでなく、個別の成員の情報がカテゴリー全体に一般化可能だと知覚されやすくなることが指摘されている (e.g., Rothbart ら, 1992)。

以上の知見を考え合わせると、内・外集団に対する本質の知覚は、内集団成員への FCE を強め、外集団成員への FCE を弱めると予測される。本研究では、この仮説を実験によって検証し、集団に対する本質の知覚が内集団と外集団における合意性推測に与える影響の解明を試みた。

方 法

参加者 大学生 173 名 (男性 66 名, 女性 105 名, 不明 1 名)。
実験計画 2 (自分自身の回答: 選択肢 1 / 選択肢 2) × 2 (推測対象: 内集団 / 外集団) × 2 (本質の知覚: 高 / 低) × 2 (推測の順番: 内集団先 / 外集団先) の要因配置で、推測対象は参加者内要因、その他の条件は参加者間要因とした。

手続き 参加者に絵の選好課題を課し、各自を無作為に「色知覚グループ」と「形知覚グループ」に分けた。続いて、自分自身の性格特性 (シャイ / 社交的) と政治的意見 (30 年以内に核兵器が使用されると思う / 思わない) について二者選択法で回答を求めた。その後、内集団成員と外集団成員のそれぞれについて、先の質問の各選択肢を選ぶ人がどのぐらいの割合いるかを、合計 100% の範囲で推測してもらった。推測の順番の効果を考慮し、半数の参加者には、内集団に関する推測を先に、残りの半数の参加者には、外集団に関する推測を先に行わせた。最後に、内集団と外集団に対して本質を知覚している程度を 3 項目の質問によって測定した (Haslam ら, 2000: 使用した項目_必然性・情報性・均一性)。

結 果 と 考 察

本質知覚 内集団と外集団に対する本質知覚の測定に用いた計 6 項目の評定平均値を算出した ($\alpha = .71$)。次に、中央値を基準に、参加者を本質知覚低群と本質知覚高群に分けた。

性格特性の合意性 内集団と外集団における「シャイな人」の割合の推測値を従属変数として、2 (自己の回答: シャイ / 社交的) × 2 (推測対象) × 2 (本質知覚) × 2 (推測の順番) の分散分析を行った。その結果、自己の回答 × 推測対象 × 本質知覚の有意な交互作用が認められた ($F(1, 165) = 3.92, p = .05$; Fig.1)。下位検定を行ったところ、内集団における合意性推測では、本質知覚の程度にかかわらず、自分をシャイと回答した参加者は、社交的と回答した参加者よりも、内集団におけるシャイな人の割合を多く見積もっており、FCE が生起していたことが示された ($p = .00$)。一方、外集団成員に関しては、本質知覚が低い場合は、参加者自身の回答による推測値の差異は認められなかった。また、本質知覚が高い場合には、シャイな人よりも、社交的な人の方が、外集団におけるシャイな人の割合を多く見積もる FUE が生じた ($p = .01$)。

政治的意見の合意性 内集団と外集団における「30 年以内に核兵器が使われると考えている人」の割合の推測値を従属変数として、性格特性と同様の分散分析を行った。その結果、自己の回答 (使われる / 使われない) × 推測対象 × 本質知覚の交互作用が認められた ($F(1, 165) = 4.12, p = .04$; Fig.2)。下位検定の結果、内集団成員に関する合意性推測では、本質知覚の程度にかかわらず、FCE が生起していた ($p = .00$)。また、本質知覚の程度が低い場合には、外集団成員に対しても、FCE が生じた ($p = .01$)。しかし、集団に本質の存在を知覚している場合には、参加者の意見は、外集団における「核が使用されると考える人」の割合の推定に影響を与えていなかった。

以上のように、集団に対する本質の知覚は、自分自身の特性、意見の外集団における合意性を見積もりを低めることが明らかになった。この結果は、本質の知覚が、外集団成員との対立の幻想を生じさせる可能性があることを示している。

Fig. 1 シャイな人の割合の推測

Fig. 2 核兵器が使われると考えている人の割合の推測

◆Haslam, N., Rothschild, L., & Ernst, D. (2000) *Brit. J. Soc. Psy.*, 39, 113-127. ◆Rothbart, M., & Taylor, M. (1992) *Language, interaction and social cognition*, (pp. 11-36). Sage. ◆Spears, R., & Manstead, A. S. R. (1990) *European review of social psychology*, 1, (pp. 81-109). John Wiley & Sons. ◆Tajfel, H. 1982 *Human group and social categories*, Cambridge University Press. ◆Yzerbyt, V. Y., & Rocher, S. (2002) *Stereotypes as explanations*, (pp. 38-67). Cambridge University Press. ◆Wilder, D. A. (1984) *Brit. J. Soc. Psy.*, 23, 232-333.

¹ 本研究は、東北大学グローバルCOEプログラム・社会階層と不平等教育研究拠点の学術的支援及び平成22年度日本学術振興会・二国間交流事業 (共同研究) の補助を得た。